

(出水郡高尾野町)

位置と環境

貝塚の立地する舌状に延びた小丘陵は、八代海に裾野を広げる笠山を構成する丘陵の一部にあたる。丘陵の上部は狭い平坦地を成し、その丘陵の裾部を白石川がほぼ東西に流れている。上部平坦地の標高が約11mで、白石川は通常4mの水位を保ち、その間の急傾斜地の裾部に貝塚が残されていた。

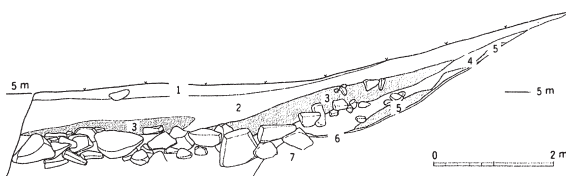
調査の経緯

高尾野町は平成3年(1991)、白石川河川災害関連事業を計画したが、実施地内に昭和36年池水寛治と出水高校考古学部が発掘した江内貝塚が含まれる可能性の高いことが分かった。そのため、同年6月10日から6月28日の間、貝塚の確認及び遺跡の有無を明らかにする目的で、県教育委員会の協力を得て確認調査を行った。

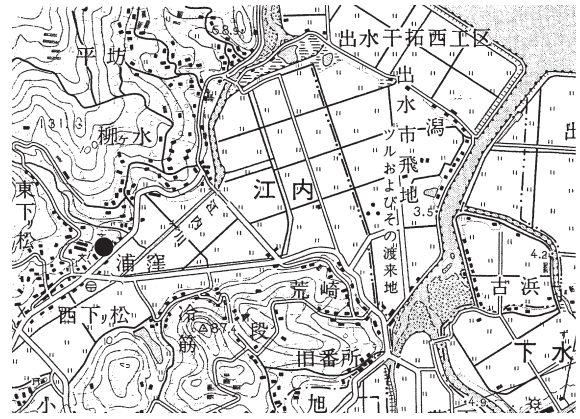
遺構と遺物

調査の結果、昭和36年の発見のきっかけとなった丘陵平坦地は、生活の中心地と期待されたが、近年の耕作による削平により消滅していた。確認した貝層は上下2層で、貝塚は、白石川右岸の急傾斜地の中間部に始まり、その末端は白石川に接していた。さらに、河川に接した末端部は広がることから、扇状を成すことが予測され、特に、上層の貝層の端部は河川氾濫礫の上位に形成されることから、河川で分断された可能性が高い。

第2図は、3号トレンチの断面図である。3層に上部貝層、5層に下部貝層が確認され、7層が丘陵を構成する基盤層で、その上位に白石川によって運ばれた河川氾濫礫が堆積している。下部貝層は、7層の基盤に沿うように河川礫の下位に形成され、一方、上部貝層は、河川礫を覆う様にその上位に形成



第2図 3トレンチ断面図



第1図 江内貝塚の位置

されていた。上部貝層は白石川まで延びるが、下部貝層も白石川で洗い流された可能性もある。

下部貝層と直下の6層からは、縄文時代中期中葉に、3層の下部貝層は縄文時代中期後様から後期初頭に形成されたと考えられる。それぞれ下部貝層では春日式土器が、上部貝層では並木式土器・阿高式土器・南福寺式土器が主体に出土している。

出土した縄文式土器は8形式あり、1類～4類土器の量は少ないが縄文時代前期のものである。5類土器が春日式土器、6類が並木式土器、7類が阿高式土器、8類が南福寺式土器である。残念ながら、昭和36年の調査箇所は明らかにできなかったが、当時の調査結果には、「・第1・第2層は上部に南福寺式土器・下部に阿高式土器、第3層は阿高式が上部に、下部に並木式が・・5層に春日式が・・」と「・縄文時代前期末に人類の生活が始まり、中期の並木式や阿高式の時期に盛行し後期初頭まで続いた・・」との記載があり、今回の調査結果と符号する。

貝層は全て持ち帰り、調査後水洗いで詳細な検証を行った。その結果、釣針2点、貝製垂飾品1点、垂飾状歯牙製品2点、ヘラ状製品3点、貝輪4点、尖頭器状製品1点が含まれていた。また、94種類の貝と12種の哺乳類(イノシシ・シカ・イヌ・タヌキ・アナグマ・テン・イタチ・ムササビ・ネズミ・モグラ・サル・クジラ)のほか魚類(タイ・ハタ・ブラ・サメ)、鳥類(キジ・ツル)の動物遺体が発見されている。また、ヘビとヒキガエルも含まれているが、食用としたかは明らかでない。捕獲量はイノシシが

最も多く、イヌ・シカの順となっており、食用事情が窺える。イノシシが多いことは鹿児島県本土の特徴とされるが、イヌの出土が多いことが本貝塚の特徴といえる。なお、サメやハタ、タイ、小魚が多く出土することは、海岸に近かったためであろう。また、クジラの左骨と椎板が採取されていることは注目される。おそらく、湾内に迷い込んだクジラを捕らえ食用にしたと考えられる。貝塚人とクジラの繋がりについては食料に限らず、土器作りにも見ることができ生活に密接に関わっていることが分かる。このことは、出土した多くの土器の底部にクジラの椎骨や椎板の跡がスタンプされて残ることから理解できる。おそらく、発見された椎板の上で土器を作ったのであろう。

そのほか、注目されるものに貝輪と黒曜石がある。タマキガイで作られた貝輪は、製品として持ち込んだ可能性が高く、また、黒曜石もそのほとんどを良質とされる長崎県や佐賀県産のものを使用している。

特徴

縄文時代の中期から後期の頃、有明海の沿岸に貝塚が多く形成されているが、本貝塚もその一つと考えられる。上部平坦地は昭和36年の調査時点では、石棒を備えた祭祀と考えられる集石遺構や埋葬人骨を伴った半環状配石遺構が発見され、当時の精神生活側面まで解明できる可能性を秘めていたが、残念ながら既に失われていた。

本貝塚の形成は前後2時期あり、上部平坦地の上記の遺構は後半に該当する。土器の底部に残るクジラのスタンプや貝輪、黒曜石利用は、有明海沿岸に展開した多くの貝塚に共通することであり、貝塚人の世界観や生活実態を映し出している。

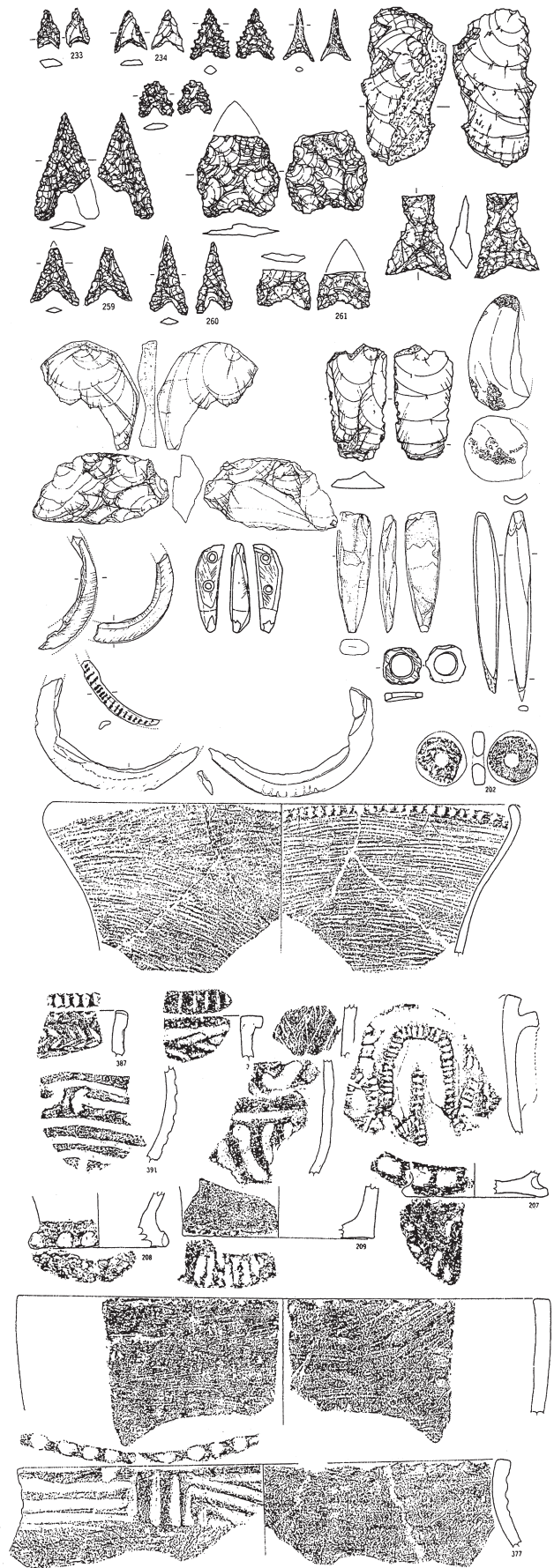
資料の所在

傾斜面の貝塚は、現状で残されている。出土遺物は、高尾野町教育委員会に保管され、一部は展示されている。

参考文献

池水寛治1966「江内貝塚調査略」『日本考古学年報』
高尾野町教育委員会1992「江内貝塚」『高尾野町埋蔵文化財発掘調査報告書』2

(長野眞一)



第3図 出土遺物

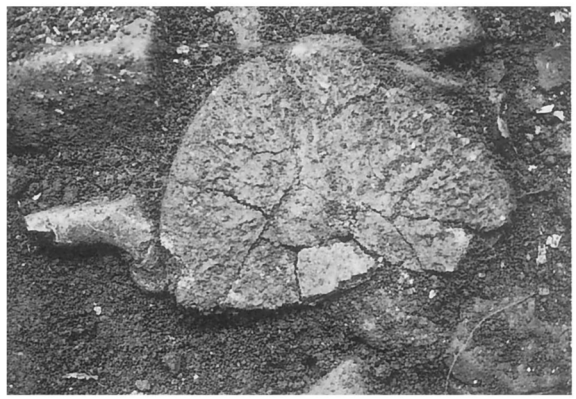
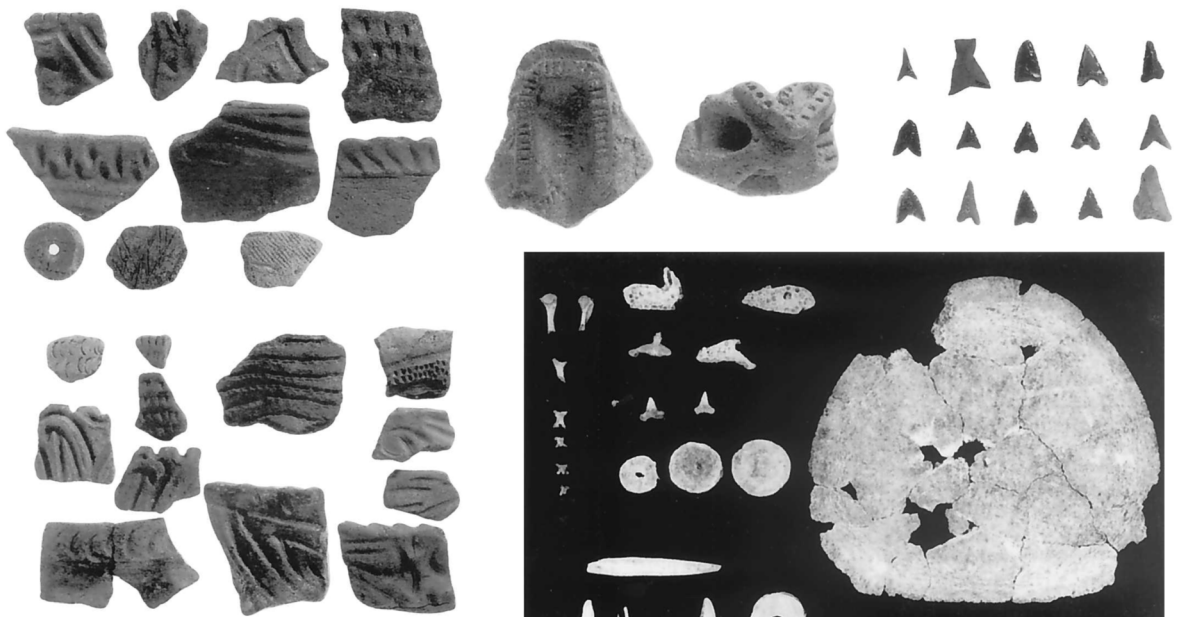


写真1 遺跡遠景，出土遺物，検出状況